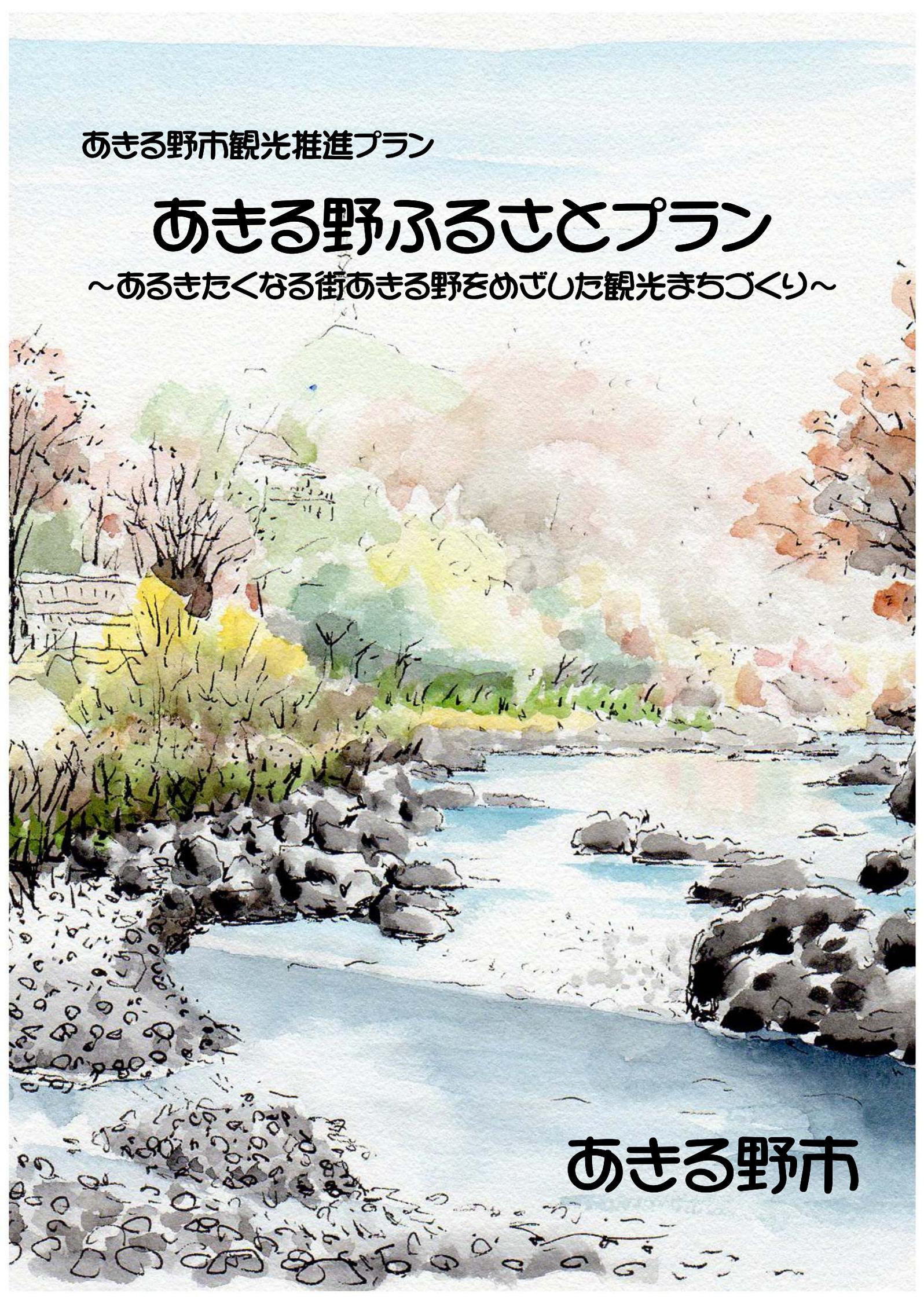


あきる野市観光推進プラン

# あきる野ふるさとプラン

～あるきたくなる街あきる野をめざした観光まちづくり～



あきる野市

## はじめに



あきる野市は、平成9年3月に合併後の観光推進の方向性を示した、あきる野市観光推進計画「あるきたくなる街あきる野プラン」を策定しました。この計画については、平成15年度から取り組んだ秋川溪谷瀬音の湯の建設と周辺整備により、一定の成果を上げたものと考えております。

今後の本市の観光推進については、後期基本計画で示すように産業振興分野において、「あるきたくなる街あきる野」を目指した観光業の振興を引き続き推進しながら、自然の豊かさと都市機能を併せ持った特長を生かし、多面的で変化に富んだ体験型の観光を目指した取組を進めてまいります。

このたび策定したあきる野市観光推進プラン「あきる野ふるさとプラン」は、10年後の『東京のふるさと・あきる野』の実現に向けて、「あるきたくなる街あきる野」を目指した観光まちづくりを推進していくための施策の方向を示しております。

あきる野市は、市域の約6割を占める山林の『森』、市域を縦断する清流秋川の『水』、五日市憲法草案や伝統芸能の『歴史と文化』などの観光資源が豊富であります。市民の皆様にとって、こうした環境を身近に接しながら生活ができることを、誇りであると感じていただいているものと思います。自らの地域を愛し誇れる、そして楽しく暮らせる街であれば、おのずと誰もがこの地を訪れたいとなり、この土地で生活をしたいとなると思います。

あきる野市全体を森にたとえ、自立した環境の森としてあり続ける姿を“持続可能なまち”として考えたとき、森には手入れが必要となります。私たち一人一人が手入れをすることによって地域への愛着が生まれます。ふるさととは、愛着の持てる地域であり、森の手入れを市民や来訪者の関わりと捉えれば、手入れをすることで地域が「ふるさと」になるといえます。

このように、地域への愛着づくりがふるさとづくりであると考えますので、『東京のふるさと・あきる野』を実現していくために、市民の皆様とともに観光まちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

平成23年（2011年）6月

あきる野市長 臼 井 孝

## 目 次

第1章 推進プランの策定について	
1 計画策定の背景と役割	1
2 計画の期間と上位・関連計画	3
第2章 観光の現状と課題	
1 あきる野市の観光の現状	5
2 国内観光の動向とニーズ	11
3 地域資源の特性	16
第3章 観光推進の方向性	
1 あきる野観光の将来像	20
2 観光まちづくりの目標	21
3 観光振興の目標値	22
4 観光のターゲット	22
第4章 観光推進の施策	
施策の取組内容	23
第5章 重点施策	
1 今後3年間で取り組む施策	26
2 重点地区の取組	34
第6章 事業推進の方針	
1 事業主体の考え方と役割	37
2 広域連携による事業推進	38
用語解説（本文中に「*番号」で表示）	39

# 第1章 推進プランの策定について

## 1 計画策定の背景と役割

### (1) 計画策定の背景

#### <地域特性を生かした観光推進>

本市は、西部に広がる馬頭刈山や戸倉三山などの山地と秋川溪谷を育む秋川や平井川など大小の河川、秋留台地を取り囲むように分布する草花、秋川、滝山の丘陵地などの変化に富んだ地形があき野の肥沃な台地と豊かな森を創り出し、首都東京の中にあっても豊かな自然に抱かれた“山地・里山環境”にあります。さらに、私たちが暮らすこの秋川流域は、古代からの地質・地形の宝庫として知られています。太古のロマンを伝える鍾乳洞や、古生代から新生代までの地層からは化石が多数発見されるなど、歴史を語る博物館ともいえる豊かな「大地の恵み」は、全国有数の自然史遺産といえるものであります。

また、利便性においても、圏央道の整備などにより交通条件も比較的整っており、都心部から短時間で来ることができるふるさと環境を残していることから、身近で、気軽に“ふるさとの雰囲気”を味わえる絶好の立地にあります。

一方で、地域の活性化策としての産業振興を考えた場合、本市においては、観光産業の振興は重要な選択肢として高いポテンシャルを有しております。

これらの優れた地域特性を生かした地域の活性化を図るためには、あき野が誇る環境と歴史・文化のすばらしさを首都圏の多くの人に訪れていただき、体験し、消費してもらうといった“観光行動”を活用した観光まちづくりの推進を図ることが大切であると考えます。

#### <まちづくりとしての観光振興>

地域活性化とは、“地域が元気になること”であり、地域を元気にするには経済的要素は重要であります。また、持続的に活性化を推進するにも産業の振興と合わせた検討が重要であります。

観光産業の振興は、地域の魅力を発信し、多くの人に訪れてもらい、地域で消費してもらうことであります。しかしながら、消費者があき野を訪問地として選択し、訪れてくれるためには、地域の魅力を向上させ、受け入れ態勢を整えると同時に、情報発信を積極的かつ地道に行うことが必要であります。

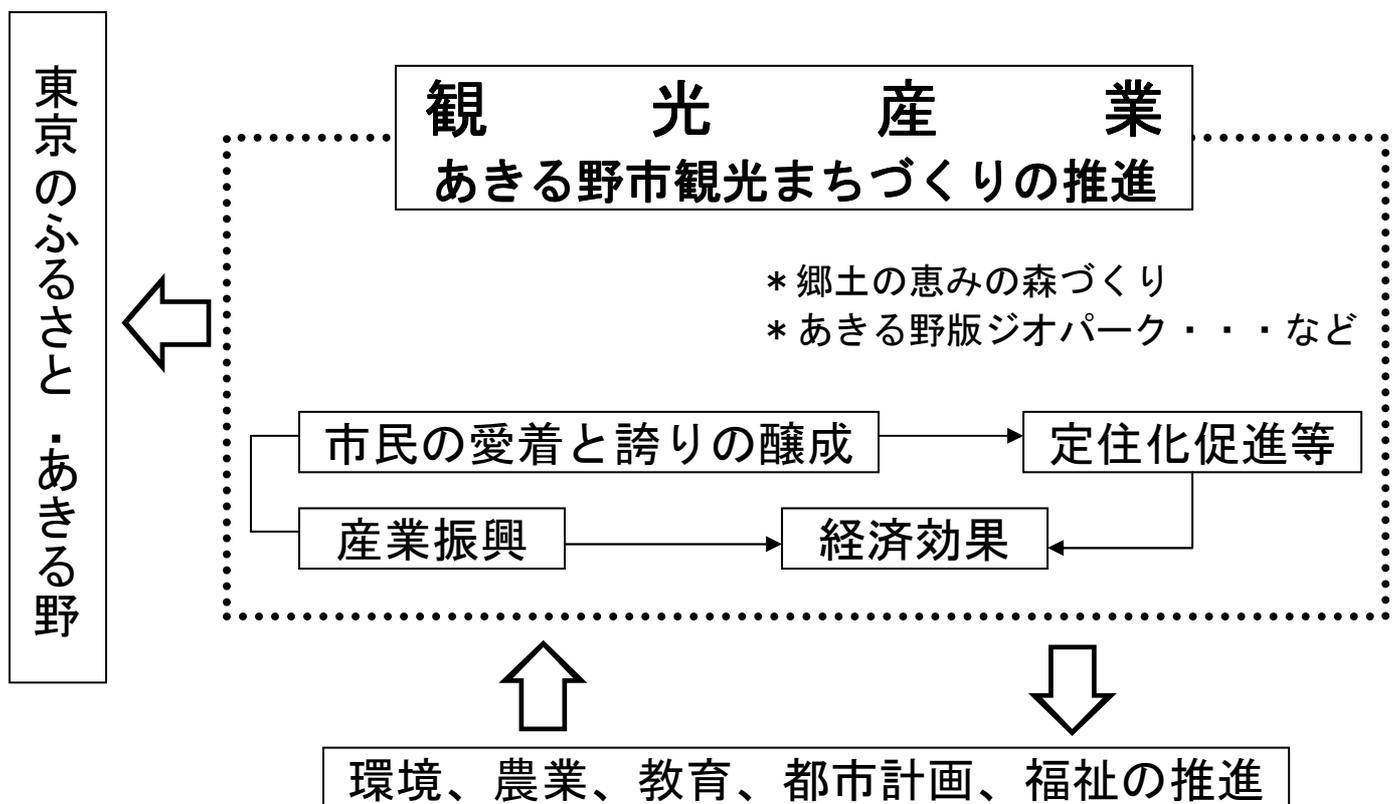
このような一連の取組により、地域の質の向上が図られ、地域の人たち自らも“まちづくり”に参画しているといった意識の高まりが生まれます。

本市では、このような機能を活用した“観光まちづくり”に市民や事業者などと協働しながら積極的に取り組んでいます。

## (2) あきる野観光推進プランの役割

あきる野ふるさとプラン\*注は、観光産業としての産業振興による経済効果と、市民の地域に対する愛着と誇りが醸成されることによる定住化などの効果により、本市の観光まちづくりにおいて「東京のふるさと・あきる野」を推進するための方針を定めることを役割としています。

計画の推進において観光は、環境を始め、農業、教育、都市計画、福祉の推進など様々なまちづくりの要素を絡めて情報発信し、誘客し、消費を促すことが施策展開の中心となります。



\*注 あきる野観光推進プランをより市民に愛され、親しんでいただくために、あきる野の身近な里山などの森や、大地から湧き出る天然水などの豊かな恵みを感じることでできる「ふるさと」を観光の推進力とするため、「あきる野ふるさとプラン」として位置付けました。

## 2 計画の期間と上位・関連計画

---

### (1) 計画の期間

あきる野ふるさとプランは、平成32年度（2020年）までの10年間を計画とし、特に平成25年度（2013年度）までの3年間については、重点施策の取組を示しています。

また、近年の社会経済情勢の著しい変化などに適切に対応するため、必要に応じて見直しを行います。

### (2) 上位・関連計画

あきる野ふるさとプランは、関係する分野別の計画との調整を図りながら推進します。

#### <あきる野市総合計画との関係>

あきる野市総合計画では、長期的な展望に立った総合的なまちづくりの将来都市像として『人と緑の新創造都市』を掲げ、その実現に向け取り組んでいます。

あきる野ふるさとプランは、総合計画の部門別計画として、後期基本計画の基本指針である『環境都市あきる野の実現』『協働のまちづくり』『行政改革の更なる推進』を、観光という視点から推進し、産業振興分野の「あるきたくなる街あきる野をめざした観光業の振興」に基づき、市の将来を描いていくとともに、市民が楽しむことを通じて生活の質の向上を目指していくものです。

#### <あきる野市環境基本計画との関係>

あきる野市環境基本計画は、あきる野市総合計画の環境部門の計画を担い、環境の保全、回復及び創造に関する施策を総合的、計画的に推進するため策定されました。

あきる野ふるさとプランは、環境基本計画と整合を図り、豊かな水と緑あふれる自然環境を観光振興に活用するために、観光と環境の連携による「東京のふるさと・あきる野」の推進に取り組めます。

### <あきる野市郷土の恵みの森構想\*1との関係>

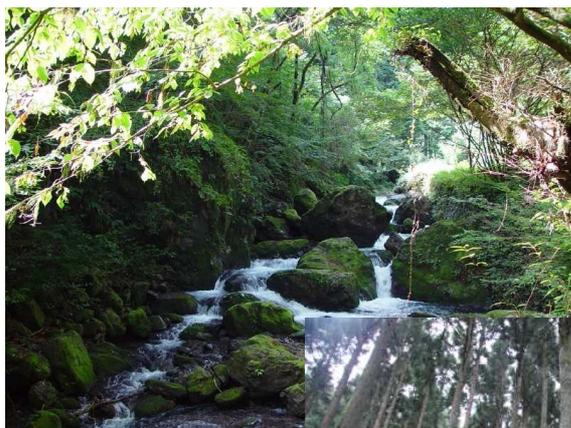
あきる野市郷土の恵みの森構想は、豊かな自然や様々な生物を育み、きれいな空気や水を創り出す市域の6割を占める貴重な森林資源を、みんなの共通財産として有効に活用することにより、市民にとってどんな“まち”にすべきかを見いだしていくものであります。

あきる野ふるさとプランは、郷土の恵みの森構想により市民との協働で育んだ地域の森などの資源を、観光に活用することにより、市民や来訪者への情報発信や楽しみを提供し、持続的な仕組みをつくり出すことを役割とします。

### <あきる野市農業振興計画との関係>

あきる野市農業振興計画は、地産地消型農業を推進し、市民との協働による「明日の笑顔が見えるあきる野農業」の実現に向け策定されました。

あきる野ふるさとプランは、農業振興計画と整合を図り、観光と農業の連携による体験型観光の推進に取り組み、魅力あるあきる野観光を目指します。



大岳沢



森



集団農地

## 第2章 観光の現状と課題

### 1 あきる野市の観光の現状

#### (1) 立地条件

##### ① 地形的要素（里山景観）

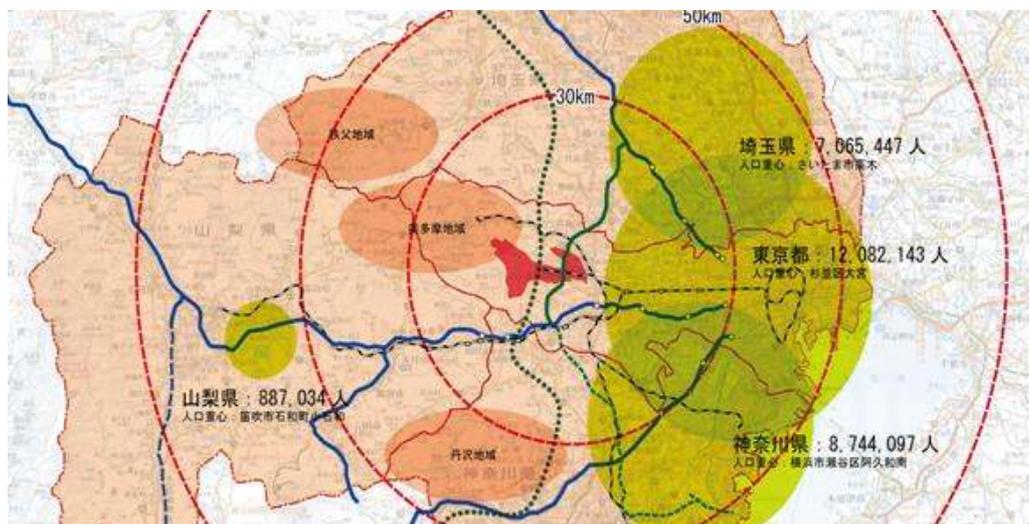
あきる野市は、関東圏の中では関東平野の西端、山間地にかかる部分に位置しており、都心部から最も近く、短時間の移動により、都市景観から自然景観の変化を体験できる立地条件にあります。



##### ② 誘致圏域の人口規模

市の観光の誘致圏としては、関東エリアの東京都、埼玉県、神奈川県、山梨県が主な対象となっています。

また、観光的に競合するのは、千葉県、茨城県などが考えられ、さらに、近いところでは、青梅・奥多摩エリア、高尾（八王子）エリアも競合地区として捉えておく必要があります。

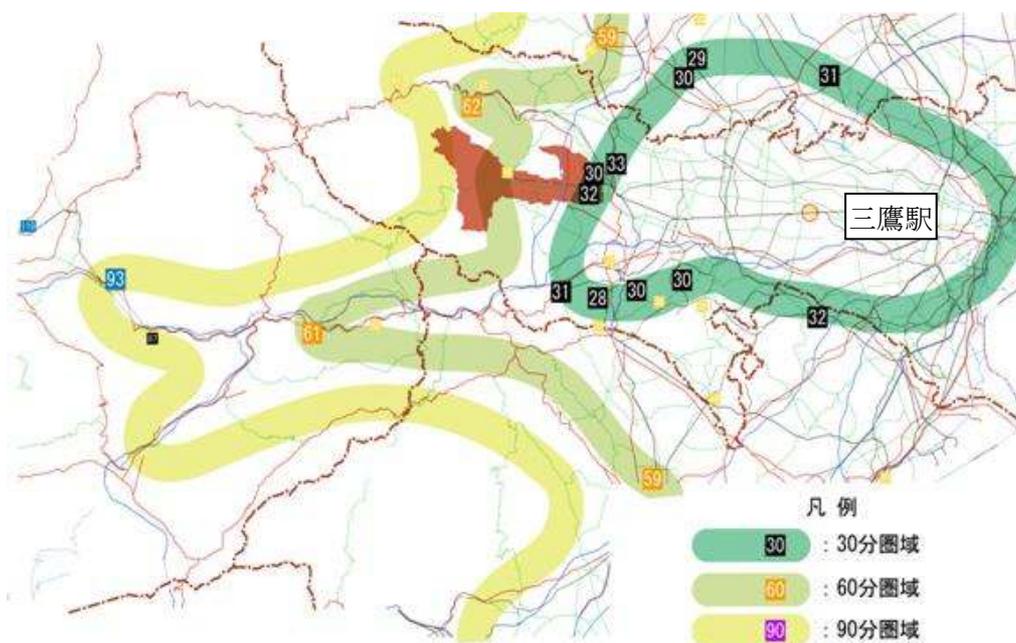


### ③ 時間距離

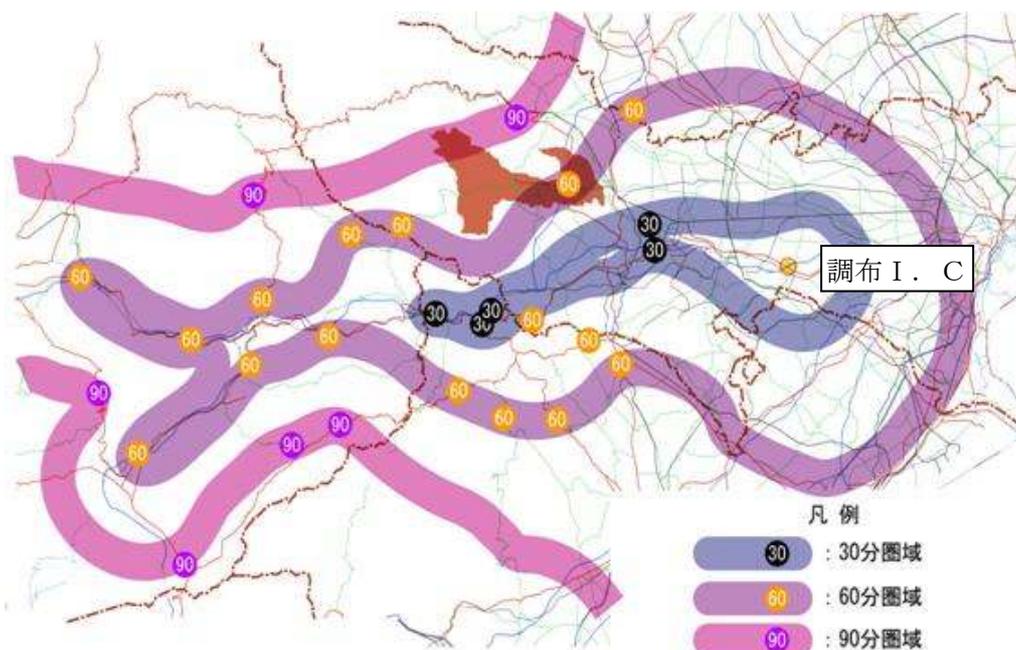
東京の人口重心\*<sup>2</sup>に近い地点からの時間距離をみると、三鷹駅を基点として考えると、鉄道利用の場合60分程度、自動車利用の場合でも60分程度の時間距離であることがわかります。

競合するエリアとの比較で考えると、気軽にアクセスができる点を生かした取組を推進することは必須条件と考えます。

□三鷹駅を起点とした時間距離



□調布I.Cを起点とした時間距離



## (2) 資源・施設の現状

あきる野市は、下表のように自然環境、歴史文化など、他市に誇れる多様な観光資源を有しています。この表の地域資源等のほかにもまだまだたくさんの眠っている観光資源もあるものと考えられますので、郷土の恵みの森づくりや自然環境調査などと連携しながら、地域資源の再発見、再発掘に努めます。

大分類	中分類	主な資源・施設
自然	川	秋川、平井川、養沢川、三内川、盆堀川
	沢・滝・湧水・池	大岳沢、大滝、小滝、白滝神社湧水、真城寺湧水、淵上石積井戸、二宮神社池、野辺神社池
	山・里	大澄山、弁天山、城山、金比羅山、刈寄山、馬頭刈山、高岩山、横沢入（里山）
	鍾乳洞	大岳鍾乳洞、三ツ合鍾乳洞、（養沢鍾乳洞：閉鎖中）
	生物	ホタル、トウキョウサンショウウオ、モリアオガエル、カワセミ、キセキレイ
	植物	カタクリ、ツツジ、アジサイ、サクラ、深沢大カシ、大悲願寺シラハギ、光厳寺ヤマザクラ、地蔵院カゴノキ、慈勝寺モッコクとタブノキ、広徳寺タラヨウ
	化石	ステゴドン・ミエンシス* <sup>3</sup> 、パレオパラドキシア* <sup>4</sup>
人文	人	千葉卓三郎* <sup>5</sup> 、萩原タケ* <sup>6</sup> 、トーマス・ブレイクモア* <sup>7</sup> 、田中丘隅、三ヶ島葎子、坂本雅城、南洋一郎、坂本龍之輔、三遊亭歌笑、疋田浩四郎、犬塚勉* <sup>8</sup>
	神社	二宮神社、雨武主神社、阿伎留神社、正一位岩走神社
	寺	広徳寺、大悲願寺、光厳寺、真照寺
	博物館など	二宮考古館、五日市郷土館
	文化・工芸	五日市憲法草案、軍道紙、黒八丈
	遺跡等	前田耕地、西秋留石器、瀬戸岡古墳群、深沢家屋敷跡、戸倉城址、南沢鳥の巣石灰岩採掘跡、伊奈石採掘遺跡
	建造物	小机家住宅、旧市倉家住宅、菅生組舞台

施設	レジャー	秋川橋河川公園、リバーサイドパークの谷、ふれあいランド、東京サマーランド、秋川国際マス釣場、養沢フライフィッシング、あきる野ふるさと工房、小峰ビクターセンター、各キャンプ場
	直売	秋川ファーマーズセンター、五日市ファーマーズセンター、瀬音の湯「朝露」
	温泉	秋川渓谷瀬音の湯
	景観・文化	南沢あじさい山、土屋美術館、深沢小さな美術館
	スポーツ	ゴルフ場（立川国際C・C、五日市C・C）、市民体育館、ファインプラザ、草花球場、市民プール、秋留台公園、総合グラウンド
	宿泊	旅館、民宿、キャンプ場、ロッジ、コテージ
催事	祭礼	二宮神社例大祭（しょうが祭り）、正一位岩走神社祭礼、阿伎留神社祭礼
	イベント	夏まつり、映画祭、ヨルイチ、産業祭、とうろう流し、百日紅まつり、芋煮会と伝統漁法、七福神めぐり、山岳耐久レース、和の響き
	その他	川釣り（山女・鮎）
特産物	農産物、酒など	のらぼう菜、とうもろこし、栗、醤油、日本酒、おやき



秋川渓谷瀬音の湯（外観）



阿伎留神社祭礼

### (3) 入込観光客数

#### <入込観光客数>

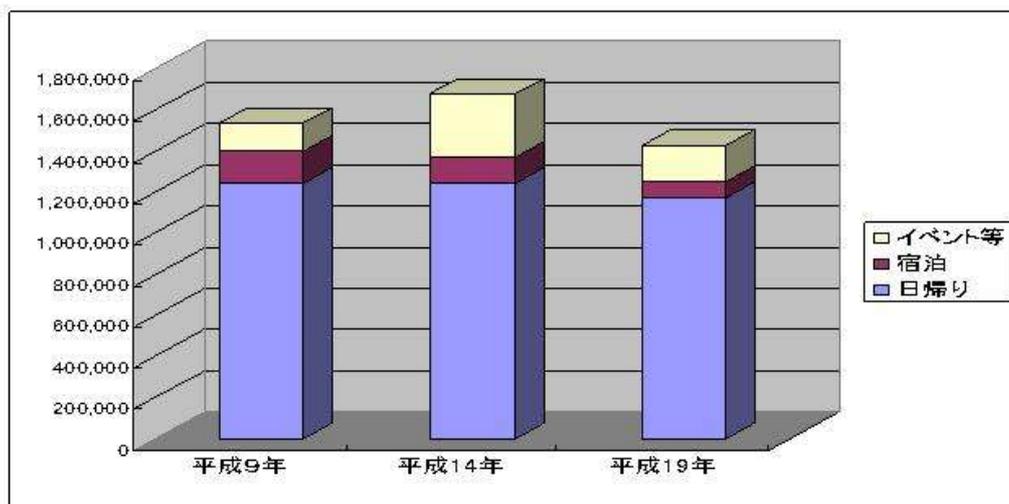
西多摩地域広域行政圏協議会\*<sup>9</sup>が5年に一度実施している入込観光客数を、平成9年、平成14年、平成19年の調査で見ると以下ようになります。

調査項目が統一されていないため、単純な比較はできないところではありますが、ここ10年程は、160万人程度の入込観光客数となっていることが分かります。

これに秋川渓谷瀬音の湯の利用者を加えると、現在は180万人程度の入込観光客数があると考えられます。

	平成9年	平成14年	平成19年
日帰り	1,244,311	1,244,803	1,174,236
第4水辺公園	20,196		
秋川ふれあいランド		15,829	14,406
東京サマーランド	1,002,031	1,071,839	996,264
リバーサイドパークの谷	11,428	8,876	5,062
秋川国際マス釣場	46,167	29,536	21,342
秋川橋河川公園	92,871	85,841	107,137
千里木駐車場	71,618	32,882	30,025
宿泊（人日ベース）	151,453	126,972	77,106
イベント	141,000	305,088	174,195
秋川渓谷自然人レース		947	869
あきる野渓谷夜明け歩き		3,342	
あきる野映画祭		6,625	6,823
二宮神社祭礼		35,000	
あきる野夏まつり			79,375
芋煮会と伝統漁法		936	3,657
日本山岳耐久レース		1,238	1,671
あきる野市産業祭		59,000	81,800
ふるさと工房五日市	51,000	30,000	
鍾乳洞	30,000	18,000	
秋川川遊び	50,000	120,000	
登山・ハイキング	10,000	30,000	
合計	1,536,764	1,676,863	1,425,537

※調査データ 西多摩地域入込観光客数調査報告書、西多摩地域広域行政圏協議会（社）大多摩観光連盟



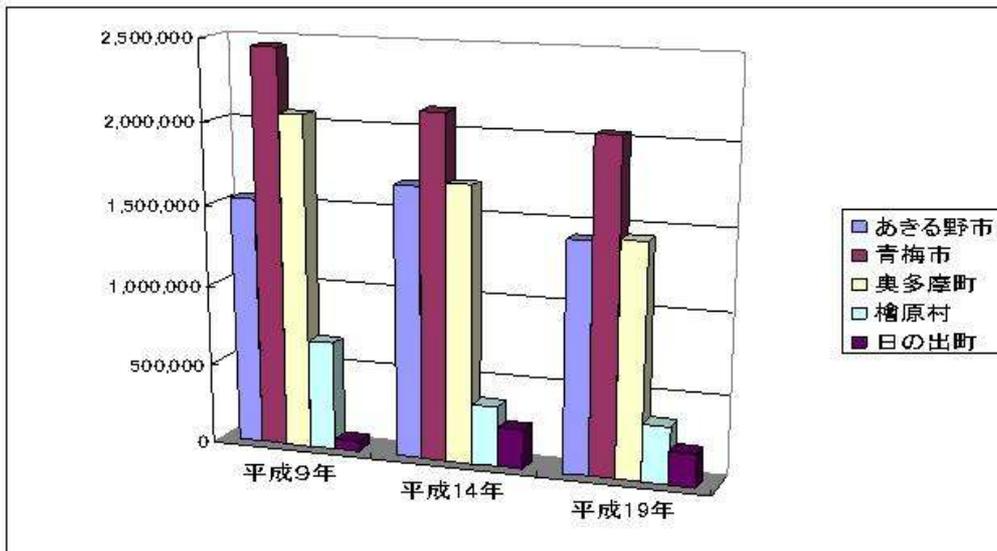
※調査データ 西多摩地域入込観光客数調査報告書、西多摩地域広域行政圏協議会（社）大多摩観光連盟

### <近隣の市町村との入込観光客数の比較>

近隣の市町村との入込観光客数を以下のように比較すると、観光的な取組では青梅・奥多摩エリアが先行していることが伺えますが、あきる野市の数値に、秋川渓谷瀬音の湯の入込観光客数を加えると、青梅・奥多摩エリアにほぼ近い数になっています。

		平成9年	平成14年	平成19年
あきる野市	日帰り	1,244,311	1,244,803	1,174,236
	宿泊	151,453	126,972	77,106
	イベント等	141,000	305,088	174,195
	合計	1,536,764	1,676,863	1,425,537
青梅市	日帰り	1,333,068	1,196,853	1,113,415
	宿泊	273,896	238,204	130,019
	イベント等	845,410	686,118	795,050
	合計	2,452,374	2,121,175	2,038,484
奥多摩町	日帰り	1,269,636	1,162,910	908,297
	宿泊	228,158	166,295	164,327
	イベント等	562,087	374,493	372,940
	合計	2,059,881	1,703,698	1,445,564
檜原村	日帰り	179,886	220,801	313,988
	宿泊	79,274	57,569	38,485
	イベント等	417,400	96,100	4,656
	合計	676,560	374,470	357,129
日の出町	日帰り	18,064	211,261	187,593
	宿泊	2,955	2,431	1,492
	イベント等	42,339	28,500	16,800
	合計	63,358	242,192	205,885

※調査データ 西多摩地域入込観光客数調査報告書、西多摩地域広域行政圏協議会（社）大多摩観光連盟



※調査データ 西多摩地域入込観光客数調査報告書、西多摩地域広域行政圏協議会（社）大多摩観光連盟

## 2 国内観光の動向とニーズ

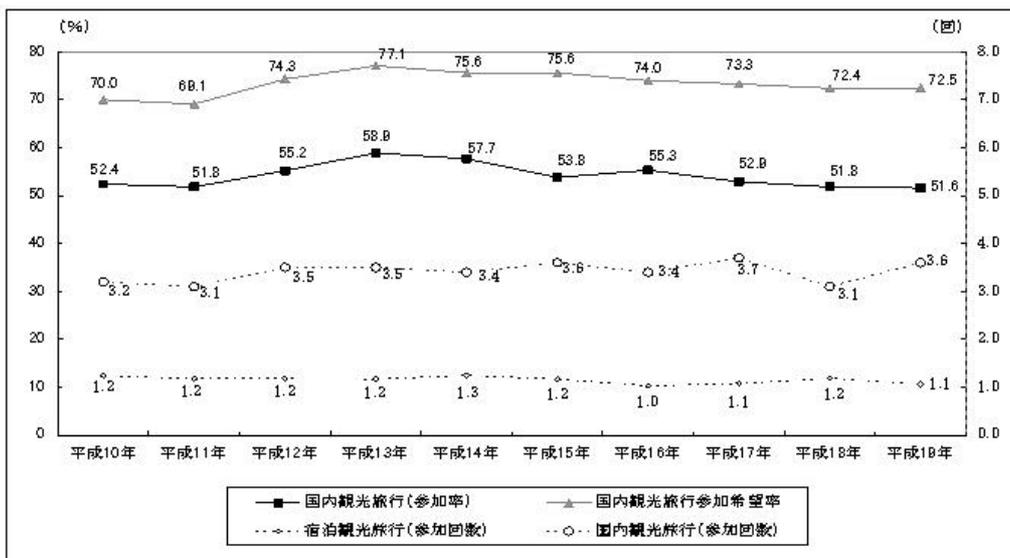
### (1) 国内観光の動向

#### <最近の国内観光旅行への参加状況>

過去10年間の日帰り観光を含む国内旅行への参加回数は、年間3回程度であります。宿泊観光旅行への参加では、年間1回程度で推移しており、いずれも大きな変化はみられていません。

国内観光旅行への参加率は5～6割程度で、平成13年をピークに減少傾向にあります。また、国内観光旅行への参加希望率は7割程度で、参加率とほぼ同様に推移しており、希望率から参加率を引いた「潜在需要」は2割程度であります。

#### □国内観光旅行への参加動向



※資料 国内観光旅行：レジャー白書（1998～2007）、(財)社会経済生産性本部  
 宿泊観光旅行：観光の実態と志向、(社)日本観光協会



### <旅行先での行動>

旅行先での主な観光行動をみると、平成10年と平成19年の上位5項目と比較すると上位2項目の「温泉浴」と「名所・旧跡をみる」には変化はなく、平成10年に3位だった「自然風景をみる」は微減し、逆に4位だった「レジャーランド・テーマパーク」が若干増加し3位に上昇しています。一方、5位だった「スキー」は圏外となり、「動・植物園などの見物」が5位に入っています。

上位4項目は、旅行の主な立寄り場所として人気があり、物見遊山型観光の低迷が指摘される中でも、「名所・旧跡をみること」が根強いことが分かります。

#### 平成10年 旅行先での行動 上位5項目

①温泉浴	24.9%
②名所・旧跡をみる	10.3%
③自然風景を見る	9.0%
④レジャーランド・テーマパーク	7.1%
⑤スキー	5.4%

#### 平成19年 旅行先での行動 上位5項目

①温泉浴	25.9%
②名所・旧跡をみる	10.4%
③レジャーランド・テーマパーク	9.5%
④自然風景を見る	8.0%
⑤動・植物園などの見物	5.2%

※調査データ 観光の実態と志向（平成20年）、(社)日本観光協会

あきる野市では、平成19年に秋川渓谷瀬音の湯がオープンし、近圏の需要にえています。また、現在は観光資源として大きくは取り上げてはいませんが、神社仏閣や歌舞伎、お囃子など、個人の趣味趣向に合わせて情報提供を行うことで、十分に観光資源となりうるものも存在しています。

### <観光形態の変化>

観光形態に関する全国調査の結果（平成19年）によると、宿泊観光旅行の同行者は、最も多いのは「家族（43.1%）」で、次いで「友人・知人（23.3%）」、「家族と友人・知人（13.3%）」が多い傾向です。「家族」は近年増加傾向にあり、「家族」、「友人・知人」、「家族と友人・知人」で全体のほぼ8割を占めています。

また、宿泊観光旅行の同行者数は、「2～3人（33.9%）」、「4～5人（25.7%）」と少グループが6割を占めています。

職場や学校などの団体旅行は、昭和57年に17.5%であったものが減少の一途をたどり、平成19年には6.8%にまで減少しており、団体旅行から家族や小グループでの旅行に移行してきています。

※調査データ 観光の実態と志向（平成20年）、(社)日本観光協会

## ＜観光のシニア化＞

人口減少・少子高齢化の影響により、観光に占める50代以上の中高年層＝シニア層の割合が急速に拡大しています。特に「登山」や「催物、博覧会」、「国内観光旅行」ではシニアの参加率が50%以上を占めています。

### □国内観光旅行への参加動向

	1997年	2007年	差
(1) 遊園地	17.7%	21.7%	4.1
(2) ドライブ	30.3%	39.5%	9.2
(3) ピクニック、ハイキング、野外散歩	36.2%	46.0%	9.7
(4) 登山	46.1%	59.8%	13.8
(5) オートキャンプ	9.7%	17.4%	7.7
(6) フィールドアスレチック	4.5%	8.1%	3.6
(7) 海水浴	12.5%	17.0%	4.5
(8) 動物園、植物園、水族館、博物館	30.4%	34.8%	4.4
(9) 催し物、博覧会	40.7%	53.8%	13.1
(10) 帰省旅行	36.0%	39.5%	3.4
(11) 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	46.3%	50.5%	4.2
(12) 海外旅行	42.2%	45.4%	3.2

※調査データ レジャー白書（1998～2007）、（財）社会経済生産性本部

統計はとっていないものの、近年、JR五日市線を利用して来訪するハイキング客などが増加しており、その大半をシニア世代が占めていると考えられます。

シニア層は時間的、経済的に余裕があることから、市内各地域を変化に富んだ多様な散策コースを設定するなど、歩く楽しみの選択肢を拡大するとともに、観光消費を促すターゲットとして、今後更に主要な顧客となっていくと考えられます。

一方で、このようなシニア化は若年層の観光旅行への不参加も影響しており、将来の余暇マーケット縮小も懸念されるところであります。



## ＜インターネットの普及に伴う観光情報の収集手段の変化＞

インターネットの普及に伴って、インターネットによる観光情報の収集が急速に増加しています。

宿泊観光旅行の際に参考にする情報としては、「家族・友人の話（37.9%）」、「ガイドブック（32.1%）」、「パンフレット（33.6%）」、「旅行専門雑誌（30.1%）」、「新聞・雑誌の広告・チラシ（21.2%）」などが主なものでありましたが、上位の2種類は減少傾向にあるのに対して、インターネットによる情報収集については、平成11年度に7.3%であったものが、平成19年度には「インターネットでの広告」が19.2%、「インターネットでの書込情報」が15.7%と、主力情報源になりつつあります。

インターネットは携帯電話からでも利用できるようになってきたことから、更に観光情報の提供手段として重要性が高まっています。

※調査データ 観光の実態と志向（平成20年）、（社）日本観光協会

## （2）観光ニーズの変化

### ＜新たな旅“ニュー・ツーリズム”の台頭＞

観光に関わる人々の価値観・ニーズは、従来型の「通過型」・「団体型」の物見遊山的なマス・ツーリズムから、「体験型」・「交流型」・「個人型」の多様な新しい旅行形態へと転換しているといえます。

この個人のニーズやテーマに応じた多様性のある新しい旅の在り方として「ニュー・ツーリズム」が注目を集めています。ニュー・ツーリズムの代表的な旅のタイプには「長期滞在型観光」、「グリーン・ツーリズム<sup>\*10</sup>」、「エコ・ツーリズム<sup>\*11</sup>」、「MICE<sup>\*12</sup>」、「産業観光」、「文化観光」、「ヘルス・ツーリズム<sup>\*13</sup>」などがあり、一般的に以下のような特徴があります。

- ① 「テーマ性」：自分にとって関心のある「テーマ」にこだわる。
- ② 「地域性・地域への寄与」：地域独自の魅力、地域発の旅行商品（＝着地型）といった地域性、地域振興への寄与などを重視する。
- ③ 「参加・体験」：単なる物見遊山ではなく、体験ツアーやプログラム等に参加するといった参加・体験を重視する。
- ④ 「地元での交流」：訪れた地域の人々との交流やふれあいを楽しむ。

※資料 レジャー白書（2007）、（財）社会経済生産性本部

## ○新しい観光ニーズと観光地において必要となる対応

最近の観光客の動向・新たな観光ニーズ	観光地において求められる取組
<p><b><u>個人主義の高まり</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史や産業など個人の関心がある様々な「テーマ」に沿った観光を求めている。</li> <li>・団体ではなく小グループで、ゆっくりと同じ地域に滞在する長期滞在の需要もある。</li> </ul>	<p><b><u>テーマ性のある観光ルート</u>の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った観光ルートマップやガイドの整備</li> <li>・地域の産物や人とのふれあいをじっくりと楽しめる時間消費型の環境整備</li> </ul>
<p><b><u>自然志向の高まり</u></b></p> <p>ストレスの増加や環境意識の高まりから、自然や地域への関心が高まり、森林セラピーやエコ・ツーリズムなどの需要も拡大しつつある。</p>	<p><b><u>地域や環境への寄与</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の摂理や生物多様性*<sup>14</sup>を学んだり、自然の中で環境との共生を実感しながら遊べるエコ・ツーリズムなどのプログラム提供</li> <li>・観光地の運営に自然や環境保全の仕組みづくり</li> </ul>
<p><b><u>健康志向の高まり</u></b></p> <p>高齢化を背景に、健康への関心が高まり観光動向においてもウォーキングや食の安全などの健康志向が高まっている。</p>	<p><b><u>身近な資源の活用</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然豊かな環境の中でゆったりとできる温泉や多様なウォーキングルートの整備</li> <li>・地域の新鮮な素材を生かして、安全・安心な食の魅力を提供</li> </ul>
<p><b><u>本物志向の高まり</u></b></p> <p>素朴な魅力であっても、地域に培われてきた実際の生活文化に触れ、体験できる固有の地域性が求められている。</p>	<p><b><u>地域性の活用</u></b></p> <p>地域に培われてきた文化的バックボーンに基づき、個々の観光資源や施設を丁寧に整備し、観光客に提供するとともに奥行きある魅力を創出</p>
<p><b><u>豊かな体験志向の高まり</u></b></p> <p>健康志向や本物志向などに象徴される様々な豊かな体験への志向が今後ますます高まる。</p>	<p><b><u>参加・体験メニューの整備</u></b></p> <p>ハード施設整備により、観光客の参加・体験を楽しませたり感動させるソフト重視</p>
<p><b><u>人とのふれあい・交流志向の高まり</u></b></p> <p>人とのふれあいが希薄になり、旅先での地元の人とのふれあいは、地域の人との人情や優しさに触れる喜びや感動発見など、観光の喜びを大きなものとする。</p>	<p><b><u>地域との交流</u></b></p> <p>訪れた地域をただ見せるだけでなく、地域の人との案内や交流による、より深みのある体験の提供</p>

<p><b><u>観光ニーズの多様化</u></b></p> <p>「〇〇をするためにここに行きたい」といった目的が明確になってきており、ニーズや関心は細分化される傾向である。</p>	<p><b><u>地域性を生かしたニュー・ツーリズムの展開</u></b></p> <p>地域性を生かして、観光ガイド育成やテーマ性のある観光ルートの整備などソフト事業を中心に展開し、多様な参加・体験型の観光ニーズに答えていく。</p>
--	--

### 3 地域資源の特性

#### (1) 観光まちづくりにおける特性

資源	特性
立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場から1時間強の近さ</li> <li>・JR五日市線の存在</li> <li>・圏央道が整備されている</li> <li>・五日市街道が都心までつながっている</li> <li>・周囲7市町村に接している</li> </ul>
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の変化が豊か</li> <li>・河川環境の質が高い（上流にダムがない）</li> <li>・里山環境が保全されている</li> <li>・古生代から新生代にかけての地層がまとまって分布している</li> </ul>
観光・レクリエーション資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のらぼう菜、とうもろこし、鮎、秋川牛<sup>*15</sup>、東京しゃも<sup>*16</sup>など食資源のポテンシャルが高い</li> <li>・民間の質の高い飲食施設がある</li> <li>・人気の温浴施設がある</li> <li>・スポーツ関連施設が充実している</li> </ul>
歴史・文化資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能が継承されている</li> <li>・五日市憲法草案<sup>*17</sup>を育んだ地</li> <li>・荻原タケを生んだ地</li> <li>・トーマス・ブレークモアが好んだ地</li> <li>・犬塚勉が愛した地</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の恵みの森づくりの活動が活発に行われている</li> <li>・3つの地区で活性化委員会<sup>*18</sup>が立ち上がるなど、市民との協働の取組が進んでいる</li> </ul>

## (2) 観光推進の課題

観光振興は、“魅力を伝える（他との差別化と効果的なPR）”、“魅力づくり（魅力の保全・育成）”、“受け入れる（来訪者をがっかりさせない受入体制）”という大きな区分で対策を行う必要がありますが、あきる野市の観光振興において取り組む施策となる事項を整理すると、以下のようになります。

### ①魅力をうまく伝えられていない（誘客の視点）

	問題点	取組（施策）
1	これまで市内に点在する、森や里山などのあきる野らしい景観にテーマ性や一体性を持たせた効果的な情報発信が弱い。	<b><u>豊かな緑の環境を発信</u></b> ふるさとイメージを創り出す“風景”にテーマ性を持たせた情報発信
2	川、沢、滝、湧水、池などの豊かな水環境の活用が、夏場の川辺のレクリエーション等に限られた限定的な情報発信となっている。	<b><u>豊かな水の環境を発信</u></b> 秋川渓谷の川や沢などの水環境のイメージを生かしたPR戦略
3	地域に点在するあきる野らしさを醸し出すような景観の優れた小風景やオープンガーデン、ポケットパークなど、市民が主体的に保全・育成している景観が活用されていない。	<b><u>花や木の風景づくりの推進・発信</u></b> 地域の小風景の保全やオープンガーデンなどのふるさと景観を情報発信
4	映画、音楽、歴史、芸術などの多くの観光的素材があるが、効果的に情報発信されていない。	<b><u>歴史や文化の活用</u></b> 映画「五日市物語」*19の公開を機に、映画（動画）や音楽などを活用した情報発信
5	来訪者と地域住民の交流の場や機会が少なく、来訪者の地域へのファンが育っていない。	<b><u>人との交流を活用</u></b> あきる野の地域ファンづくりを目的とした交流を活用した情報発信
6	多摩川流域との差別化を図り、秋川流域のすばらしさや特色を効果的に情報発信するための広域的取組がされていない。	<b><u>広域観光の連携強化</u></b> 武蔵五日市駅を玄関口として、あきる野、日の出、檜原との広域的・戦略的な情報発信
7	近年の情報発信の手法は、インターネットやSNS*20などの活用が顕著である。従来の情報発信手法に加え、多角的な情報発信が求められている。	<b><u>メディアの多角的活用</u></b> テレビ、ラジオ、雑誌、インターネット、SNS、PRツアー*21等を戦略的に活用した情報発信

## ②魅力核が育っていない（魅力形成の視点）

	問題点	取組（施策）
1	地域で生産される農産物や木材などを活用した加工品の開発に取り組み、将来性のあるポテンシャルの高い製品づくりが求められている。	<b><u>地域食の育成と活用</u></b> 地域内で消費させる手法の確立と新たな食や製品の魅力づくり
2	“森林”環境も、地域住民にとっては特別ではなく、当たり前の存在であるが、手を加えることで魅力が増す場所や地域が眠っている。	<b><u>森の育成と活用</u></b> 郷土の恵みの森構想により整いつつある森林活用の仕組みを更に拡充した森林環境の活用
3	地域の魅力を最大限に活用するために、地域の人たちと一体になって進める魅力づくりを、市民との協働で推進することが求められている。	<b><u>地区ごとの魅力づくり</u></b> 個々の魅力をつなぐ手法の導入や、地域のリーダーを育成することで、地区単位での魅力づくり
4	時代の流れや来訪者のニーズに対応できていない既存の観光資源を再生したり、新たな資源による観光資源の創設が必要である。	<b><u>地域資源のブラッシュアップ</u></b> 既存の観光施設の再生や新たな観光資源の創設
5	地域内を散策するコース設定もあるが、季節や時間などにも配慮した、きめ細やかなコース設定や情報発信がなされていない。	<b><u>散策コースの充実</u></b> あきる野百景や文化財なども活用しながら、年間を通じて歩いて楽しいコース設定
6	農業環境や林業環境を活用した新たな体験型観光の創出や農産物や木材などを加工から販売まで行う6次産業*22も視野に入れた農商工連携の観光活用が求められている。	<b><u>農商工環境を活用</u></b> 農業、商業、工業が連携し、6次産業化も視野に入れた観光の仕組みを活用して、都市近郊型の産業育成
7	五日市地域交流センター、秋留野広場、駅周辺の空間、都市公園、公的な場所などの公共空間をオープンに活用することのニーズが高まっている。	<b><u>公的空間の有効活用</u></b> 五日市地域交流センター、秋留野広場、駅周辺の空間などの有効活用

### ③魅力を楽しむ環境が整っていない（受入体制整備の視点）

	問題点	取組（施策）
1	地域観光の多様な素材を生かし、それらをつなげプログラム化する仕組みを扱う組織が存在していない。	<b><u>地域観光を推進する組織づくり</u></b> 地域観光を推進する組織づくりの強化の取組
2	市民解説員の仕組みはあるが、観光的活動を行っていない。そのノウハウや経験を生かした、観光ボランティアガイドなどの育成が求められている。	<b><u>市民ガイドの育成と充実</u></b> 市民解説員の仕組みを生かした人材育成と活用
3	あきる野百景めぐり、あきる野健康21計画、インターバル速歩などによるウォーキング形態を活用した多様なコース設定に対応した誘導サインや資源の解説などの情報提供が弱い。	<b><u>地域サインの充実</u></b> 一人でも歩いて楽しめるサインや、健康のための案内・誘導・解説サインの充実
4	国や東京都の進めるインバウンド観光に対応する受け皿が整っていない。外国人にも人気の歌舞伎の地芝居や祭りなどが観光活用されていない。	<b><u>伝統芸能を活用した観光客の受入れ</u></b> 地芝居、祭りやお囃子を活用し、外国人にも対応できる体験型の伝統芸能を楽しむ機会づくり
5	従来の宿泊形態に加え、研修やコンベンション* <sup>23</sup> 、MICE、スポーツイベント、各種大会誘致などによる多様な滞在型観光の受け皿づくりが求められている。	<b><u>滞在型観光の促進</u></b> 多様な宿泊のプログラムづくりによる滞在型観光の充実
6	新たな観光形態として、秋川流域の地理的条件を生かした、スポーツとしてのサイクル・ツーリズム* <sup>24</sup> や身近な観光スポットを散策できるレンタサイクルなどの自転車を活用した観光の仕組みづくりと受入体制の取組が求められている。	<b><u>自転車の観光活用</u></b> 交通手段や健康とエコにも配慮した活用と、自転車愛好家にとっての聖地的観光地としての検討
7	来訪者のもてなしの基本である清潔なトイレの充実や自転車やオートバイ愛好家にも対応した休憩施設などのインフラの充実が求められている。	<b><u>アメニティ施設の充実</u></b> 情報提供の仕組みやトイレ・休憩施設などの観光インフラの充実

## 第3章 観光推進の方向性

### 1 あきる野観光の将来像

あきる野のすばらしい環境像をイメージしてみてください。

「遠くに連なる山々を望み、澄んだ青空の下、五日市地区の森林や秋川丘陵及び草花丘陵の里山が秋留台地に広がる畑や川沿いの水田を囲み、水面が光る秋川や平井川には、カワセミ、キセキレイなどの野鳥が季節を楽しみ、水辺では歓声を上げて遊ぶ子供達、それを見守り優しく微笑む大人たちが川沿いを散策している。視線を上げれば奥山や丘陵に四季の花木がまるでパッチワーク模様のように彩りを添え、里山では自然環境保全の象徴であるトウキョウサンショウウオが人と共生しながら暮らしている。」

あきる野市は、東京都の中でも、豊かな自然に恵まれ、水辺や緑、動植物に身近に触れ合うことができる「ふるさと」の環境が今でも色濃く残されているまちであります。どの地域でも古き良き時代には、家族や郷土を愛し誇りに想いながら、生き生きと暮らしていた人間模様がありました。夏には日の暮れるまで魚取りに夢中になり、夕闇が迫る中、最後の一匹を釣ろうと粘った少年の頃の思い出、山や鎮守の森では、自然を相手に日が落ちるまで遊びまわり、カブトムシやクワガタなどを捕まえながら、命の尊さを学び、生きていることへの感謝をした日々など、今でも夢に出てくる情景は、生まれ、育ち、遊んだ「ふるさと」そのものであると思います。

そこで、あきる野ふるさとプランの将来像を、「ふるさと」をキーワードに以下のように設定します。

#### <目指す将来像>

10年後のあきる野市が目指す将来像として、

**あるきたくなる街あきる野の実現に向けて  
“東京のふるさと・あきる野”**

を掲げます。

市民が地域に愛着と誇りを持ち、自らの暮らしを豊かにするために積極的に地域に関わりを持つことを目指します。

将来像の目標としては、「観て歩いて楽しいまち」「市民に愛されているまち」「活力のあるまち」「住みたくなるまち」を観光のまちづくりによって推進します。

## 2 観光まちづくりの目標

### (1) 観て歩いて楽しいまち

#### 豊かな地域資源を生かした観光振興

- ① 山林や里山、清流秋川、恵まれた農地などの自然や地域資源を活用した、自然に親しむ体験型の観光を推進します。
- ② 貴重な地質・地形、化石など自然遺産を活用した、体験型ジオパークの観光を推進します。
- ③ 神社仏閣や伝統工芸などの歴史的資源を活用した、地域の歴史や文化と触れ合い、体験する観光を推進します。
- ④ 森や水環境などの地域資源を磨く取組を活用した、市民と協働で進める観光を推進します。
- ⑤ 点在する小風景に花や木を植えるなど、四季を通じて美しいまちの風景を醸し出す、見所を創出した観光を推進します。

### (2) 市民に愛されているまち

#### 郷土愛とおもてなしがあふれるふるさとづくり

- ① 地域で盛んに行われている祭りのにぎわい、お囃子や神輿の盛り上がりを活用した、活気あふれる観光を推進します。
- ② 地域で行われるイベントなど、市民の自主的な取組を支援しながら、地域への愛着と誇りを醸成し、市民に愛される観光を推進します。
- ③ 観光交流を生み出す、心地良い景観とおもてなしの心を活用した、地域と人とのネットワークづくりの観光を推進します。

### (3) 活力のあるまち

#### 産業とスポーツ・文化が融合した観光振興

- ① 農林業、商工業などと連携し、地域の特産物を活用した商品開発やブランド化を進める付加価値創造型の観光産業の育成を推進します。
- ② 多様なスポーツ施設と人材を通じ、体験・交流型スポーツやプロイベントなどを活用した、観光を推進します。
- ③ 音楽や文化などの余暇活動を通じ、地域に活力と元気を与える観光を推進します。

(4) 住みたくなるまち

**暮らしと観光が調和したふるさとづくり**

- ① 自主的な市民活動による地域の美化や景観整備などを活用した、快適な暮らしの空間を創造する観光を推進します。
- ② 恵まれた自然環境で生物多様性を学び、豊かな感性を持った人間性が育つ、自然と共生した観光を推進します。
- ③ 時間の流れが緩やかで、せせらぎの音や鳥のさえずりをBGMに1日を過ごせる癒しと安らぎの観光を推進します。
- ④ 新鮮で安全・安心な旬の食材の栽培・収穫を体験できる農業環境を整備し、観光を推進します。

### 3 観光振興の目標値

今後10年間の観光客数の目標値として以下のように設定します。

#### 現在の観光客数 年間180万人⇒250万人

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| ・日帰り客数     | 年間150万人から200万人に |
| ・宿泊客数      | 年間 10万人から 20万人に |
| ・行事やイベント客数 | 年間 20万人から 30万人に |

### 4 観光のターゲット

あきる野市におけるアクセス条件、資源の現状、ポテンシャル等から、誘致ターゲットを以下のように設定します。

- ① 森林や河川での体験型レジャーを楽しむファミリー
- ② 多様なコース設定で繰り返し訪れる中高年の登山・ハイキング客
- ③ ドライブを兼ねて新鮮で安全・安心な野菜など求めて訪れる健康志向の中高年
- ④ 里山環境や河川環境の中で飲食を楽しむ女性客
- ⑤ 里山環境や河川環境を学びに訪れる児童及び生徒
- ⑥ 少年野球やサッカーなどの合宿で訪れる児童及び生徒
- ⑦ アウトドアレジャーを楽しむ企業や大学などのグループ
- ⑧ 自転車やオートバイを趣味にしている個人及びグループ
- ⑨ トレイルランニング\*<sup>25</sup>等山岳系スポーツを行う個人及びグループ

## 第4章 観光推進の施策

### 施策の取組内容

本計画では、平成32年度（2020年）のあきる野市の将来像を想定し、21の施策に取り組み、「東京のふるさと・あきる野」を目指します。

#### （1）『誘客の視点』⇒資源活用・情報発信

##### 豊かな緑の環境を発信

人の手を入れ整備した森や里山など、豊かな緑の環境を活用し、発信します。  
例（小宮・深沢・菅生地区などの郷土の恵みの森づくりを発信）

##### 豊かな水の環境を発信

親水性の高い河川環境など水をテーマにした環境を活用し、発信します。  
例（秋川渓谷などを活用した観光の発信）

##### 花や木の風景づくりの推進

市内各所のふるさとの景観の保全・育成の取組を発信します。  
例（乙津地区の桜やオープンガーデン等の取組を発信）

##### 歴史や文化の活用

歴史的資源、映画、音楽、芸術等の観光資源の更なる魅力を向上させるとともに、フィルムコミッションなどに活用し、発信します。  
例（神社仏閣、映画「五日市物語」、絵画などの資源を活用）

##### 人との交流を活用

観光交流などによるあきる野のファンづくりを進め、発信します。  
例（おもてなしの達人の育成や（仮称）秋川渓谷ファンクラブなどの組織づくり）

##### 広域観光の連携強化

「秋川流域」をブランド化し、多摩地域や首都圏に向けて発信します。  
例（あきる野・日の出・檜原地域観光まちづくり推進協議会\*26の取組の充実）

##### メディアの多角的活用

インターネット、ツイッター、Facebook（フェイスブック）\*27などのIT関連の活用や、観光の専門雑誌やメディアを招待したPRツアーなど多角的に発信します。  
例（メディアを対象とした観光PRツアーの実施）

## (2) 『魅力形成の視点』 ⇒ 観光資源の育成

### 地域食等の育成と活用

地域特産食材等を生かしたブランド化など、観光商品化の開発を進めます。  
例（秋川牛、東京しゃも、とうもろこし、のらぼう菜、しょうがなど）

### 森の育成と活用

郷土の恵みの森構想に基づき、里山の復活、美しい経済林の育成と計画的な間伐、広葉樹林への復元による水源かん養\*<sup>28</sup>の保全など、人と森との新たな共生の姿の創出を進めます。

例（城山周辺、秋川渓谷瀬音の湯周辺、深沢地区などの景観整備）

### 地区ごとの魅力づくり

養沢、五日市、秋川駅北口の活性化の取組を始め、地域の人材と魅力づくりの取組の拡大を進めます。

例（養沢、五日市、秋川駅北口活性化委員会を中心とした地域づくりの取組支援）

### 地域資源のブラッシュアップ

観光資源の再生や新たな観光資源の創出等に向けた魅力の形成を進めます。  
例（秋川渓谷瀬音の湯とふるさと工房の連携や、五日市地区の蔵などの町並みを活用した観光の推進）

### 散策コースの充実

郷土の恵みの森づくり、あきる野百景、文化財等の地域資源の回遊性を高め、ハイキング等の活用など、多様な散策コースの充実を図ります。

例（市民みんなで歩くあきる野百景\*<sup>29</sup>めぐりの策定とコース整備）

### 農商工環境を活用

体験型観光や新たな商品開発など6次産業も視野に入れた活用に取り組みます。  
例（自然観光体験のブルーベリー、イチゴの摘み取りなどの観光農業の推進、特産品の商品開発と販売促進）

### 公的空間の有効活用

五日市地域交流センター、駅周辺空間、秋留野広場などの公的空間の観光活用に取り組みます。

例（観光を目的としたイベントの拠点として定期的にイベントを実施）

### (3) 『受入体制整備の視点』 ⇒ 市民の意識醸成

#### 地域観光を推進する組織づくり

着地型旅行\*<sup>30</sup>などの企画運営を担う組織づくりを推進します。  
例（あきる野市観光協会の組織強化など）

#### 市民ガイドの育成と充実

市民ボランティアガイド制度の仕組みづくり、人材育成及び活用を図ります。  
例（五日市地区などを活動の拠点とした市民ボランティアガイド制度の確立、森林レンジャーによるネイチャー・ガイド\*<sup>31</sup>など）

#### 地域サインの充実

自然・都市景観に配慮したサインの充実を図ります。  
例（市民みんなで歩くあきる野百景めぐりなどのサイン（秋川産材\*<sup>32</sup>活用））

#### 伝統芸能を活用した観光客の受入れ

地芝居やお囃子等を活用した観光客（外国人など）の受入体制に取り組みます。  
例（地芝居やお囃子の鑑賞や体験による外国人などを視野に入れた誘客を検討）

#### 滞在型観光の促進

企業、団体、学校などの研修やコンベンションを始めとするMICEなどを活用した、新たな宿泊需要に対応した受入体制を整備し、滞在型観光を促進します。  
例（既存宿泊施設の観光需要拡大のほか、新たな宿泊施設の立地を図るため、対象エリアの絞り込みと関係機関との協議）

#### 自転車の観光活用

サイクル・ツーリズム等に対応した観光インフラの整備を推進します。  
例（自転車愛好家の聖地としての位置付けの確立や、レンタサイクルの仕組みづくりの検討（サイクル・ツーリズム））

#### アメニティ施設の充実

観光資源に配慮したトイレや休憩施設の充実を図ります。  
例（散策モデルコースや市民みんなで歩くあきる野百景めぐりのコースなどに対応したトイレ・休憩施設などの対象エリアの絞り込みと関係機関との協議）

## 第5章 重点施策

### 1 今後3年間で取り組む施策

#### (1) ターゲットとする客層

《小・中学生を持つファミリー層》

##### 施策1 **体験の舞台づくり**

山林、里山、川の自然探検、化石発掘、軍道紙など家族で体験できるプログラムづくりを進めます。



化石採取体験



軍道紙

**推進の手法** 誘客の視点⇒豊かな緑の環境を発信、メディアの多角的活用  
受入体制整備の視点⇒市民ガイドの育成と充実

##### 施策2 **地域資源めぐり**

自然景観、伝統工芸、温泉などの地域資源を巡るプログラムづくりを進めます。



大岳鍾乳洞



秋川溪谷瀬音の湯（内観）

**推進の手法** 誘客の視点⇒歴史や文化の活用、メディアの多角的活用  
魅力形成の視点⇒地域資源のブラッシュアップ、散策コースの充実  
受入体制整備の視点⇒市民ガイドの育成と充実

### 施策3 **地域資源を伝える人材の育成**

地域住民や事業者との連携による里山などの暮らし体験、昔話などの語り部、郷土食づくりの人材育成を進めます。



里山（人家）



市民解説員

**推進の手法** 誘客の視点⇒歴史や文化の活用  
受入体制整備の視点⇒市民ガイドの育成と充実

### 施策4 **郷土愛による観光推進**

都市と自然が持つ魅力や各地域の歴史・文化、祭り、イベントなどの地域資源を生かした観光を進めます。



広徳寺



二宮神社祭礼

**推進の手法** 誘客の視点⇒歴史や文化の活用、メディアの多角的活用  
魅力形成の視点⇒地域資源のブラッシュアップ  
受入体制整備の視点⇒伝統芸能を活用した観光客の受入れ

## (2) あきる野市の魅力を高める施策

### 《森と水と農の環境を活用した魅力づくり》

#### 施策1 **森を活用した観光資源づくり**

市民と協働の森づくりを推進し、散策や環境学習など森の恵みを生かした観光を進めます。



しゃくなげの植樹体験



環境学習

**推進の手法** 誘客の視点⇒豊かな緑の環境を発信  
受入体制整備の視点⇒森の育成と活用

#### 施策2 **水環境の回遊性づくり**

秋川溪谷を始め、沢、滝、湧水などの水環境をテーマ別に回遊できる観光を進めます。



沢



滝

**推進の手法** 誘客の視点⇒豊かな水の環境を発信  
魅力形成の視点⇒森の育成と活用、地域資源のブラッシュアップ、  
散策コースの充実

### 施策3 **農と食のツーリズム**

農林業体験と郷土の食材を活用した料理体験などのプログラムづくりを進めます。



農業体験



おやき

**推進の手法** 魅力形成の視点⇒地域食等の育成と活用、農商工環境を活用  
受入体制整備の視点⇒市民ガイドの育成と充実

### (3) 受入体制を整備する施策

#### 〈風景づくりと景観向上による受入体制整備〉

#### 施策1 **四季の景観づくり**

市民との協働により点在する小さな風景や街角に花や木を植栽し、四季の景観を生かした観光を進めます。



龍珠院の桜



花いっぱい運動

**推進の手法** 誘客の視点⇒花や木の風景づくりの推進  
魅力形成の視点⇒地域資源のブラッシュアップ

## 施策2 **自慢の景観づくり**

市民の自主的な取組によるオープンガーデン\*<sup>33</sup>やアダプト制度\*<sup>34</sup>等を利用し、景観を生かした観光を進めます。



オープンガーデン



一斉清掃

**推進の手法** 誘客の視点⇒花や木の風景づくりの推進  
魅力形成の視点⇒地域資源のブラッシュアップ

## 施策3 **計画的な観光サインづくり**

国立公園やその周辺の屋外広告物の集約と景観に配慮した観光誘導のサインづくりを進めます。



指導標



街なかひとり歩きサイン

**推進の手法** 受入体制整備の視点⇒地域サインの充実

#### (4) 新たな体験型観光を目指す施策

##### 《あきる野版ジオパーク\*<sup>35</sup>の観光活用の検討》

###### 施策1 **自然遺産による観光振興**

日本ジオパークへの登録の取組に合わせて、地質・地形、化石などの野外体験教室展示を生かした観光を進めます。



ミエゾウ化石



地層の逆転

**推進の手法** 誘客の視点⇒歴史や文化の活用、広域観光の連携強化、  
メディアの多角的活用  
**魅力形成の視点**⇒地域資源のブラッシュアップ  
**受入体制整備の視点**⇒市民ガイドの育成と充実

###### 施策2 **歴史を学ぶ観光体験**

太古のロマンを伝える化石発掘の体験や土器、ヤジリづくりなどの原始生活体験を生かした観光を進めます。



スナムグリ化石



土器

**推進の手法** 誘客の視点⇒歴史や文化の活用  
**魅力形成の視点**⇒地域資源のブラッシュアップ  
**受入体制整備の視点**⇒市民ガイドの育成と充実

### 施策3 **あきる野古代めぐり**

考古学的資源の磨き上げを行い、遺跡めぐりなどテーマ別の回遊性を生かした観光を進めます。



西秋留石器時代住居跡



戸倉城址

**推進の手法** 誘客の視点⇒歴史や文化の活用  
魅力形成の視点⇒地域資源のブラッシュアップ、散策コースの充実  
受入体制整備の視点⇒市民ガイドの育成と充実

## (5) 新たな滞在型観光を検討する施策

### 《滞在型体験観光の促進におけるMICE等の検討》

#### 施策1 **滞在型観光施設立地のエリア設定**

市街化調整区域内への観光施設建設について次のエリアを対象とし、東京都と手続の協議をしながら、あきる野観光まちづくりを進めます。

- ① 秋川に隣接又は近接しているエリア
- ② 郷土の恵みの森構想の計画エリア
- ③ あきる野ふるさとプランの重点施策エリア

**推進の手法** 受入体制整備の視点⇒滞在型観光の促進、アメニティ施設の充実

## 施策2 **あきる野版MICEによる観光推進**

従来の宿泊客の受入体制に加え、企業の会議、従業員研修、学生や団体などの合宿などと組み合わせたあきる野版MICEを進めます。

特に、豊かな自然と首都圏からの立地を生かし、公共施設等を利用したあきる野版コンベンション・シティ\*<sup>36</sup>に向け取り組みます。



研修風景



合宿風景

**推進の手法** 誘客の視点⇒広域観光の連携強化、メディアの多角的活用  
受入体制整備の視点⇒滞在型観光の促進

## 施策3 **サイクル・ツーリズムによる滞在型観光の推進**

自転車愛好家の好む地形を活用し、サイクル・ツーリズムの宿泊需要の研究を進めます。



サイクル・ツーリズム



ロードバイク

**推進の手法** 誘客の視点⇒広域観光の連携強化、メディアの多角的活用  
受入体制整備の視点⇒滞在型観光の促進、自転車の観光活用

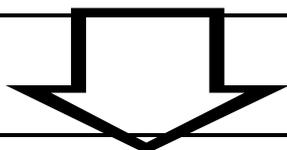
## 2 重点地区の取組

### (1) 小宮・戸倉地区

#### 温泉などの観光施設や山里を生かしたおもてなしの地域づくり

##### <現状>

地区内には、秋川、大岳沢、養沢川、盆掘川などの大小の河川と源流域の広葉樹林、下流域の針葉樹林の森が広がり、秩父多摩甲斐国立公園の一部を形成しています。この自然環境の中には、秋川渓谷、城山、馬頭刈山、秋川渓谷瀬音の湯、ふるさと工房、大岳・三ツ合鍾乳洞、溪流つりなどの観光スポットが多く点在していますので、それぞれの特徴を集約しながら、観光振興に取り組んでいきます。また、山里、神社仏閣、芸術文化、郷土芸能など多彩な地域資源が存在しています。特に、小宮地区では、地域活性化委員会が地域住民により組織され、おもてなしの「養沢の里」づくりに向けて精力的に活動しています。



##### <取組>

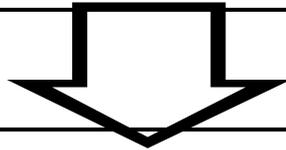
- ① 郷土の恵みの森づくりで回遊性のある観光スポットを創出
- ② 秋川渓谷瀬音の湯などの様々な観光施設の横断的なネットワーク化で一体的な観光振興
- ③ 滞在型観光を推進する新たな観光施設の立地に向けた関係機関との協議手続の取組
- ④ 森や河川を活用して、自然体験・交流体験の観光拠点づくり
- ⑤ 養沢活性化委員会を中心におもてなしの「養沢の里」づくり
- ⑥ 伝統的な行祭事、山里の文化的景観、郷土芸能、芸術・工芸、歴史文化の活用

(2) 五日市地区

**五日市地域交流センターを観光の拠点とした取組**

**<現状>**

地区内には、秋川が中央を流れ、五日市商店街を中心に北側には金比羅山、深沢の南沢あじさい山や五日市憲法草案が発見された深沢家土蔵、南側には秋川橋河川公園、阿伎留神社や小和田の広徳寺などの観光資源が豊富にあります。また、ヨルイチや百日紅まつりなどの地域イベントや古くから伝わる阿伎留神社の例大祭も盛大に行われております。さらに、小宮地区同様地域住民による五日市活性化戦略委員会が組織されるなど、五日市商店街を中心としたまちづくりの取組が行われています。



**<取組>**

- ① 五日市地域交流センターの情報発信基地としての有効活用
- ② あきる野版ジオパークの観光活用の検討
- ③ 郷土の恵みの森づくりで回遊性のある観光スポットを創出
- ④ 伝統的な行祭事、郷土芸能、歴史文化の活用
- ⑤ 観光ボランティアガイドの育成と活用
- ⑥ 滞在型観光施設を推進する新たな観光施設の立地に向けた関係機関との協議手続の取組



映画「五日市物語」の1シーン

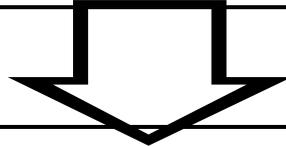
### (3) 秋川地区

#### 農業環境とスポーツ環境を生かした地域づくり

##### <現状>

地区内は、広大な秋留台地に、居住空間、商業施設、工業団地等が点在する都市的環境と、平坦で肥沃な集団農地を形成する農業環境の両面を持ち合わせ、周囲には、北側に都立草花丘陵自然公園、南側には都立滝山自然公園と都立秋川丘陵自然公園のなだらかな丘陵が連なり、至る所に里山の景観を残している。縄文時代の遺跡や古墳などの文化財や湧き水の名所なども点在するなど、緑豊かな都市空間を形成しています。

このような環境を生かし、農業では、秋川ファーマーズセンターを拠点とした地産地消型の農業が展開されています。また、スポーツ施設や文化施設も充実しており、市民は音楽やスポーツに積極的に取り組んでいます。観光という視点では活用されていないのが現状であります。地区内の中心市街地である秋川駅北口周辺は、地域住民による秋川駅北口地区産業活性化戦略委員会が組織され、秋川駅を核とした商業を中心とした活性化の取組が行われています。



##### <取組>

- ① 体験農業や市民農園などの農業環境の活用
- ② 桜などの花木の名所めぐりにあきる野百景を活用
- ③ 都立草花丘陵自然公園や都立秋川丘陵自然公園の比較的緩やかな散策コースを活用し、四季折々の自然環境と隣接する他市と連携したイベントによる観光活用
- ④ 豊富なスポーツ施設を活用した、国体やプロスポーツなどの開催を観光活用
- ⑤ 地域特産物のブランド化の取組に農商工連携を活用

## 第6章 事業推進の方針

### 1 事業主体の考え方と役割

来訪者を受け入れ、観光行動を魅力的なものにするため、市民、事業者（観光協会、商工会含む。）、行政の三者の協働によりそれぞれの役割を担います。

#### （1）市民の役割

- ・市民ボランティアガイドの育成プログラムへの積極的な参加や朝市の開催など、市民個人や少人数でできること、お祭りや地域イベントの開催など、地区や商店会などが協力して行うことなど、地域、地区で来訪者を受け入れ、もてなす仕組みや体制づくりに取り組み、身近な観光の推進を図ります。
- ・オープンガーデンやアダプト制度を活用し、地域のふるさとイメージを創り出し、魅力的で快適な環境づくりとして身近な景観の整備に取り組みます。

#### （2）事業者の役割

- ・地域、地区内の事業者が連携しながら、地域全体の景観や観光資源の質の向上、土産物や特産品の開発、誘致ターゲットへの情報発信や現地での情報提供などに取り組みます。
- ・地域のイメージを創り出し、魅力的で快適な環境づくりとして来訪を誘発する景観の整備やサイクリングやオートバイを趣味とした来訪者をもてなす施設（駐輪スペースの確保やスタンドの設置）の整備に取り組みます。

#### （3）行政の役割

- ・観光における現状や観光動向を把握し、可能性を分析します。
- ・市としての観光振興の方向性を市場性なども踏まえ明確にします。
- ・市民や事業者の観光振興に関わる動きを把握し、支援します。
- ・市民や事業者に、先進地の事例紹介や、先進地への視察のコーディネート、観光の専門家の講演会等を実施するなど、観光振興に対して取り組みやすい環境を整えます。
- ・魅力を伝える情報発信や地域内での行動を誘発する情報提供を行います。
- ・地域のふるさとイメージを創り出し、魅力的で快適な環境づくりとして来訪を誘発する景観の整備、域内での居心地を左右するもてなし施設（トイレや休憩施設）の整備をします。

## 2 広域連携による事業推進

---

### (1) 秋川流域の広域連携

秋川流域の観光と多摩川流域の観光については、市外からの来訪者にとって、それぞれの自然環境の違いや歴史・文化の特徴などが明確に区別されていない現状があります。

また、秋川流域の観光は、多摩川流域の観光に比べ、観光規模や観光入込客数において若干劣っている傾向にあります。しかしながら、秋川流域ならではの魅力については、多摩川流域に勝るとも劣らないものが多々あります。これらのすばらしい流域の魅力を日の出町や檜原村との広域的な連携を強化することによる情報発信等で、ブランド化が十分に可能であると考えます。

以上のことから、秋川流域の広域連携を強化することにより、秋川流域の観光資源のブラッシュアップによる更なる魅力アップや、各種メディアへの多角的な情報発信による誘客に取り組みます。

### (2) 大多摩観光の広域連携

大多摩観光連盟の会員10市町村の広域連携の取組の中で、秋川流域の魅力を情報発信し、競合する他県の観光地との差別化を図り誘客に取り組みます。

### (3) 周辺地域との広域連携

あきる野市と隣接する羽村市や八王子市との広域連携により、接する地域資源を生かした観光ルートづくりなど、有効かつ効果的な取組と情報発信による観光推進を図ります。

### (4) 友好姉妹都市宮城県栗原市や友好都市大島町との広域連携

友好姉妹都市である栗原市や友好都市大島町との広域連携により、地域間交流など多様で変化に富んだ観光推進を図ります。

### (5) 広域連携の関係団体

あきる野市の観光による広域連携においては、以下の団体等と緊密な連携を図ります。

- ・ 秋川流域開発振興協議会
- ・ あきる野・日の出・檜原地域観光まちづくり推進協議会
- ・ 友好姉妹都市栗原市
- ・ 友好都市大島町
- ・ 大多摩観光連盟（青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、奥多摩町、檜原村、小菅村、丹波山村）

## 用語解説

No.	頁	用語	解説
* 1	4	あきる野市郷土の恵みの森構想	市域の約60パーセントを森で占めるあきる野市は、森づくり「環境都市あきる野」を実現するため、市域の森をみんなの共通財産として捉え直し、10年後、20年後、100年後の将来を見据えた森づくりを行い、地域の人たちの森への想いを夢をかたちにする「郷土の恵みの森構想」を平成22年3月に策定した。
* 2	6	人口重心	ある地域に住む人々の居住地点からなる図形の重心である。物理的に説明すれば、その地域に住んでいる全ての人と同じ体重を持つと仮定してその地域を支えることができる重心となる。 東京都の人口重心は、2005年現在、杉並区大宮2丁目にあり、50年前と比べて約2km西に移動した。これは戦後、多摩地域の人口が増えたためである。
* 3	7	ステゴドン・ミエンシス	鮮新世の中期～後期にかけての日本には、ミエゾウという大型のステゴドンが生息していた。
* 4	7	パレオパラドキシア	約1,300万年前に絶滅した東柱目の哺乳類
* 5	7	千葉卓三郎 (1852～1883)	明治時代の自由民権運動家。1880年春より、五日市勸能小学校に勤務。翌年、深沢権八らと五日市憲法を起草したとされている。
* 6	7	萩原タケ (1873～1936)	あきる野市五日市出身で日本赤十字社の看護婦、大正9年に日本人初のフローレンス・ナイチンゲール記章受賞
* 7	7	トーマス・ブレイクモア (1915～1994)	アメリカ人法律家で、私財を投じ、あきる野市(小宮・養沢)の養沢川に毛鉤専用釣り場を開設する。
* 8	7	犬塚勉 (1949～1988)	1987年から1年半あきる野市(小宮・寺岡)に在住、元小学校教師で画家

* 9	9	西多摩地域広域行政圏協議会	西多摩地域の一体的整備と住民の福祉増進を図るため、広域行政圏計画の策定及び広域行政圏に関する必要な事務の連絡調整を行うことを目的に、青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村及び奥多摩町の8市町村で組織されている。
* 1 0	1 4	グリーン・ツーリズム	都市住民などが、緑豊かな農山村地域においてその自然や文化、人々との交流を楽しむ旅行形態
* 1 1	1 4	エコ・ツーリズム	自然環境や文化・歴史等を観光の対象としながら、その持続可能性を考慮する旅行
* 1 2	1 4	M I C E	企業等の会議、企業が行う研修旅行など、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント
* 1 3	1 4	ヘルス・ツーリズム	医学的な根拠に基づく健康の回復や維持、増進につながる観光温泉療法や森林療法を目的とした旅行形態
* 1 4	1 5	生物多様性	様々な生態系が存在し、生物の種の違いや同じ種の中での遺伝子の違いが存在すること。 生物多様性の保全は、人間が生存していく上で不可欠な生存基盤としても重要である。 「生物多様性条約」に基づき、わが国でも「生物多様性国家戦略」（平成19年（2007年）3月：第三次計画）が定められ、①遺伝子の多様性、②種の多様性、③生態系の多様性の3つのレベルでの多様性の保全が進められている。
* 1 5	1 6	秋川牛	松坂牛や米沢牛と同じ元牛である黒毛和牛を、市内の牧場で丹念に育てた東京都産の高級食肉和牛
* 1 6	1 6	東京しゃも	自然に恵まれた市内で生産された軍鶏（しゃも）
* 1 7	1 6	五日市憲法草案	明治時代初期に作られた私擬憲法のひとつで、全204条からなり、千葉卓三郎が起草した。昭和43年にあきる野市（当時：五日市町）で発見された。

*18	16	活性化委員会	「秋川駅北口」、「五日市」及び「養沢」の3地域の活性化を促進するため、地域住民による活性化委員会が組織され、活性化委員会を中心に活性化に向けた様々な取組が行われている。
*19	17	映画「五日市物語」	市では、長い歴史の中で優れた文化が花開いた「五日市」を題材にした東京のふるさと「五日市物語」の映画を作製した。
*20	17	SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービスの略）	社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービス
*21	17	PRツアー	旅行会社や旅行雑誌などのメディア関係者に市内の観光素材を体験してもらい、情報発信していく企画
*22	18	6次産業	農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態
*23	19	コンベンション	特定の目的で多数の人が集まる会議、大会、見本市
*24	19	サイクル・ツーリズム	自然環境の保全、旅行者の健康と安全、地域住民との交流促進を目的とする、自転車を利用した旅行形態
*25	22	トレイルランニング	ランニングスポーツの一種で、舗装路以外の山野を走ること。
*26	23	あきる野・日の出・檜原地域観光まちづくり推進協議会	あきる野市、日の出町及び檜原村の3市町村において、広域的な観光振興に取り組んでいる組織で、それぞれの観光協会が中心になっている。
*27	23	Facebook（フェイスブック）	インターネット上で人と人がつながる場所（コミュニティ）を提供するサービス
*28	24	水源かん養	森林の土壌が、雨水を浸・貯留し（保水機能）、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能
*29	24	市民みんなで歩くあきる野百景	市で発行している、観光パンフレット、あきる野百景、文化財マップ、あきる野ふれあいマップなどのマップを総合的にまとめ、市民みんなが市内の名所をゆっくりと散策できるマップ

* 3 0	2 5	着地型旅行	地域が現地でのプログラムを用意し、観光客に参加してもらい、地域住民との触れ合う体験交流型観光や学びの旅など、地域の個性あふれる観光素材を扱う旅行商品
* 3 1	2 5	ネイチャー・ガイド	自然散策ツアーなど、自然と触れ合うツアーのガイド
* 3 2	2 5	秋川産材	市内で生育し、適正に管理された森林から生産された木材。多摩産材には多摩産材認証協議会が定める制度により認証された木材を多摩産材として認証しているが、秋川産材の認証制度はない。
* 3 3	3 0	オープンガーデン	個人の庭を一定期間、一般の人に公開するという活動
* 3 4	3 0	アダプト制度	行政が特定の公共施設（道路、公園、河川等）について、市民や民間事業者と定期的に美化活動を行うよう契約する制度
* 3 5	3 1	ジオパーク	地球科学的に見て重要な自然遺産を含む、自然に親しむための公園。大地の公園
* 3 6	3 3	コンベンション・シティ	国際会議など大規模な催物の開催に備え、施設・交通機関などが整備されている都市



表紙 野尻明美：画

あきる野百景30番『佳月橋周辺』を描いた作品の一部を表紙に使用させていただいております。

あきる野市観光推進プラン

あきる野ふるさとプラン

平成23年（2011年）6月

発行 東京都あきる野市  
編集 あきる野市環境経済部商工観光課  
あきる野市二宮350番地  
電話 042-558-1111

HP <http://www.city.akiruno.tokyo.jp/>



東京都あきる野市